N. T. ELLERKAMP(ﾗｲﾝ) 書簡集 (ｽﾍﾟｰｽ, ｺﾒﾝﾄ) 2003/12 (9)

(重) 私は 9/13 から 9/15 まで Maentilan ﾎﾃﾙ に滞在した。ここは Buisink 氏 副会長 君初 Roelofsen 氏等が使った Kolb 式ホテル。 最初 1911年3月迄 ｻﾏﾗﾝｸﾞ に日本人学校が開設されていた。ここに居た日本人は 高崎 という ｺｹﾝｼ 1名だった。

ここに、朝日(1911年3月迄に一部は)ｻﾏﾗﾝｸﾞの婦女子が日本人に伴われ逃げ出したのは述べた。我々が ｻﾏﾗﾝｸﾞ に着いた時、日本人 気の入った娘達、名一皆記憶ある。又 ｻﾏﾗﾝｸﾞ 在留 副会長に用事があったとき専ら婦人を出された(立子婦人名 Roelofsen 副会長で記憶されている) ｻﾏﾗﾝｸﾞ は (ﾏﾏ) 事務所と記憶している。名人警部の我々 接待の為に立子婦人達一時人許「バー」が開かれたりしたことがあった。此時、娘達はこれと一緒に連れ行かれてきた。

其時、我見た、此女達である。

我々は Hessler ホテル (ﾏﾏ) 出発より日本人と日本医師及び名人警官一団の連れの日本人(日本料理)が「ｽﾄ」ｻﾏﾗﾝｸﾞへ行き来る。彼等が連行された婦人や娘達と我々と同行の教会の牧師さんの時間。日本人一行の目的と語られたが我々に明瞭に判明した。

教会の立子婦女子に同行の牧師さん 更に荷物を持った車夫等である。

ミュラインケル, ROELAFSEN 氏等 と DEKMEIJER 医師と比べ日本人にない娘達を ｻﾏﾗﾝｸﾞ に残さず皆へ引き揚げ許されたが立子婦人と教会が逃げ出すまで。

それ以前日本人と一緒に立ち去れなかった立子日本人が(重)これ娘達に良く自己意志で ｻﾏﾗﾝｸﾞ の為に抗議した(ﾏﾏ)彼女が教会を去って

思うに彼女は ｻﾏﾗﾝｸﾞ 外一名の一名、「名人警官の高級な娘達を「ｻﾏﾗﾝｸﾞ」の

エイゼルカンプ氏に依頼した。即ち 此重に「Hoe?」(如何に)と質問。大騒ぎとなった。

娘達は婦人達に「Hoe?」(如何に)と質問。大騒ぎとなった。

ここらの事情は、日本人一行等の連れ出しが ｻﾏﾗﾝｸﾞ 中へ入って来た「ｻｰﾍﾞﾙ」ﾃﾞ

婦人達(ﾏﾏ)を思い出した。 後で此重が婦人と娘達を連れ行かれた。

ﾊﾝﾄｳ 先の後 ｻﾏﾗﾝｸﾞ 行が娘達、代わり 彼等のホテルの立寄者 オランダ人が

ﾏﾏ ｻﾏﾗﾝｸﾞ ﾎﾃﾙ名一ﾊﾝﾄｳ。 連れ去られた娘達 中に JOKE de GRAAF

ﾏﾏ 住吉町, VAN SITK 姓, HUP姓, SLOOT 姓 娘 居た。

ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ 行 彼等の荷物、物件 連行の為のコメントが出来る。

ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ｻﾏﾗﾝｸﾞ に見えましたが 彼女ﾏﾏ ｺｹﾝｼ 一行見

ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ 娘達が ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ。 此 若い娘達

ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ ﾏﾏ